

第130号

# カトレアだより

発行日：2023年（令和5年）11月10日

〒191-0011

東京都日野市日野本町 6-3-17

TEL 042-589-2250

医療法人社団 英世会

介護老人保健施設カトレア

## 新型コロナウイルス感染状況は落ち着いております

新型コロナウイルス感染症が今年の5月に5類に移行して、街ではマスク無しの方が多く見られ、観光地に人が殺到する「オーバーツーリズム（観光公害）」の様子が報道されています。一方で感染状況は「第9波」到来とも言われていますが、世の中は「with コロナ」から「アフターコロナ」に転換しつつあるようです。

しかしながら、介護施設はまだまだ油断ができず、直接面会は緩和させていただきましたが、職員のマスク対応、手指消毒の徹底など、感染対策は以前と全く変わっていません。毎週一度のPCR検査や、抗原検査なども継続しており、それでも時々職員の陽性連絡もあります。その都度、ご利用者や他の職員の健康観察に努めながら、様子を見ていくというルールになっております。以前は一人でも陽性者が出たら大騒ぎでしたが、現在は、とにかく早めの情報共有・速やかな初動対応をこころがけており、お蔭様でカトレアでは、施設内感染には至らず、事業が継続できております。



カトレアに御神輿がやってきました!

9月18日敬老会の日に、御神輿がやってきました。ご近所の「加組祭り愛好会」方たちが、毎年この時期にきてくださっていましたが、コロナの影響で、中止になっていました。

実に3年ぶりです。神さまが神輿に乗って街を練り歩くことを「神輿渡御」というのだそうですが、神さまが大きな力を振りまいて人々の「災い」を清めるためのものとか。

ご利益(りやく)がありますように。





## 9月行事 敬老会

今年の敬老のお祝いは、お祝い会と上映会を別々に実施させていただきました。

先ず9月17日(日)は、午前と午後で、各フロアに分かれて式典を行いました。その後3回に分けて「2023年あの人も賀寿 私は誰でショー」上映会を開きました。

カトレアは現在、入所者の方の平均年齢は88歳、最高齢の方は106歳です。また入所者の85%が80歳以上、46%が90歳以上の方です。平均年齢は国の統計でも高くなっておりませんが、カトレアも同様です。

長きにわたって苦難な時代を生き抜いてこられたご利用者に、敬意を表したいと思えます。カトレアでの生活が、安らぎのあるものでありますように。



### ご利用者の感想

- ・あの人、きれいだったね。
- ・え〜っ! いつ亡くなったの!
- ・そんな歳だったんだあ。
- ・あの歌ね、長いからテレビでは絶対やらないんだよ。聞けてよかったあ。
- ・懐かしかったよ。

## 居酒屋



毎月、お誕生月の方を中心に、「居酒屋」を開店しています。いつもと違う食事メニューと居酒屋仕立ての和やかな雰囲気、楽しんでいただいています。フロアのレク担当と栄養課がアイデアを出しながら企画しております。

12





## 3階秋祭り



今年はそろそろご家族参加の納涼祭ができたかと思っていたのですが、秋に延ばして秋祭りを計画しておりました。しかしながら、新型コロナ「第9波」の状況下で、ご家族のお誘いを断念いたしました。更には、10月に2階3階別々の「秋祭り」を予定していたのですが、2階フロアの方では感染症の関係で中止となってしまいました。2階のご利用者には本当に申し訳なかったです。

3階の方は、10月29日(日)に実施いたしました。フロア内に屋台やゲームコーナーを設置して、お祭りの雰囲気を楽しんでいただきました。



## 異動職員のお知らせ

10月に職員の異動がありました。カトレアと同法人介護老人保健施設ロベリア間で、2名の介護職員が異動になりました。カトレアからは、2階介護主任腰塚智がロベリアの介護長として異動、2階介護士長田彰がロベリア介護士として異動いたしました。

ロベリアから異動となった介護役職をご紹介します。二人とも当法人に入職して約15年以上勤務のベテラン介護職員です。

### 2階 介護主任 鵜澤 健一



10月より同法人のロベリアからカトレアに異動となりました。まだ慣れない職場ですが、少しずつ慣れていきたいと思えます。日々の施設生活での支援やレクリエーション活動を通じて、ご家族様・ご利用者様に信頼していただけるよう努めてまいります。

私の趣味は、登山やキャンプです。今年、弾丸で富士山を登頂しました。アウトドアが好きな方は、声をかけてください。

宜しくお願いします。

### 3階 介護副主任 佐藤 直樹



ロベリアに入職してから初めての異動で戸惑いだらけですが、ロベリアで学んだことを生かしつつ、またいい所も採り入れながら、カトレアでも頑張っていきたいと思っています。まだまだわからないことだらけですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

今、UFOキャッチャーにハマっていて、子どもにあげたり、子どもと一緒にやったりして楽しんでいます。



# 日野市立病院認定看護師による施設内研修実施

## ～高齢者の皮膚ケアについて～

10月12日(木)、日野市立病院の皮膚ケア認定看護師の方を講師にお招きして、「高齢者の皮膚ケア」についての勉強会を実施いたしました。

狭い会議室でしたが、約20名程の職員が参加し、高齢者の皮膚の特徴、皮膚・排せつケアについての講義を受け、ご利用者の皮膚トラブルの予防やケアについて勉強いたしました。

更に、「入浴後以外で乳液の効果的な塗布方法」「褥瘡部位の洗浄」「入浴時の介護者のグローブやタオルの素材」など、質疑応答も活発にありました。もちろん施設では専門職がケアに当たっていますが、更に皮膚ケアの認定看護師の方からいただく具体的なアドバイスは、とてもありがたく、勉強になりました。

日野市立病院には、さまざまな分野の認定看護師がおられるとのこと。更に施設ケアの質を高めていくために、こうした機会を増やしていきたいと思っております。



## BCP(事業継続計画)策定に向けて

令和3年度の介護報酬改定で、このBCP(事業継続計画)の策定が義務付けとなり、その策定の猶予期限が令和6年3月31日となっています。新型コロナウイルス感染症のパンデミックや自然災害の発生により、介護施設・事業所でも、事業継続が難しくなったところも多くあります。自然災害については、当施設でも2019年の台風19号の際に多摩川からの冠水の恐怖を感じた経験がありますが、そのあと登場した「新型コロナ」。国がいよいよこの二つの大きな脅威に対して、福祉業界にもそうした危機に見舞われても事業が継続していくように、その計画策定を義務付けしたものです。

カトレアでは、自然災害だけは法人として策定されたものがありましたが、改めて年度初めから再策定に取り組み、感染症の方はほぼ完成しました。自然災害の方は今年中に仕上がる予定です。事業を継続するという事は、すなわちご利用者の生活・命を守りということ。それはこの事業を請け負った私たち施設の責務でもあると考えます。

### 編集後記

先日、ある出版社が毎年行っている「今年の流行語大賞」のノミネート語30が発表されました。2020年コロナに追われた年に、さまざまな感染症関係の言葉が飛び交う中、当施設では施設内で職員・ご利用者にも「あなたの流行語大賞予想」のアンケートを取りました。あの時はやはり「三密」でした。以来毎年気になって見えています。

さて、今年の大賞予想は、個人的には「あれ」です。日本で言われていた「アレ」ではなくて、世界を興奮させてくれたあの時の「決めゼリフ」、あの言葉です。(わかる方しかわからないかもしれませんが・・・)

「ノミネート語30」を廊下の壁に貼り出しています。通り過ぎるご利用者と「こんな言葉、知らないね」「私はこれだと思う」「私はあれだわ」と言葉を交わすひと時がとても楽しいです。胸が苦しくなるようなニュース映像が日々流れていますが、こんなたわいもない日常が奪われることのないようにと願うばかりです。 上田